

みずほマーケット・トピック(2017年1月27日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みとさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は下に往って来いの展開。週初23日、113円台後半でオープンしたドル/円相場は、目立った材料がない中、113円台半ばを挟んで方向感に欠けるも、トランプ米大統領が環太平洋経済連携協定(TPP)離脱を指示する大統領令に署名をしたことが伝わると保護主義政策への懸念が高まり、米長期金利低下を受けて112円台後半まで下落した。その後、ムニューチン次期米財務長官が「過度なドル高は短期的にマイナスの影響を与える可能性」との考えを示したことが伝わると、24日にかけてのドル/円は一時週安値となる112.52円をつけた。だが、米12月マークイット製造業PMIの市場予想を上回る結果やトランプ大統領がカナダから米テキサス州に原油を運ぶパイプラインの建設を推進する大統領令に署名したことなどから、ドル/円は113円台後半まで反発。翌25日には利益確定の売りに押され113円台前半に下落する動きも見られたものの、26日にかけては原油価格の上昇などを受けてドル買いが強まり、ドル/円は一時114.80円台まで買い進められた。その後、リスク回避の円買いに114円台前半まで反落したものの、本日は日銀による国債買い入れ増額を受け円売りが加速し、一時週高値となる115円台まで上昇している。
- 今週のユーロ相場は週後半に下落する展開。週初23日、1.07台前半でオープンしたユーロ/ドルは、米長期金利の低下を背景に1.07台半ばまで上昇した。その後、ムニューチン次期米財務長官が「過度なドル高は短期的にマイナスの影響を与える可能性がある」との考えを示したことが伝わるとドル売りが強まり、ユーロ/ドルは24日にかけて1.07台後半まで上伸した。その後は材料に乏しい中、ユーロ/ドルは一時週高値となる1.0775をつけるも、米株価や米金利の上昇を背景にドル買いが強まり、1.07台前半まで反落した。25日にかけても、新規材料に欠ける中、ユーロ/ドルは1.07台前半で底堅い推移が継続した。翌26日は、ドル買い優勢地合いの展開にユーロ/ドルは下落し、一時週安値となる1.0658をつける場面も見られた。その後は1.06台後半で動意乏しく推移し、本日にかけてもユーロ/ドルは1.06台後半で推移している。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		1/20(Fri)	1/23(Mon)	1/24(Tue)	1/25(Wed)	1/26(Thu)	
ドル/円	東京9:00	114.94	113.82	112.80	113.87	113.28	
	High	115.38	114.45	113.89	113.99	114.86	
	Low	114.21	112.68	112.52	113.04	113.05	
	NY 17:00	114.65	112.70	113.79	113.28	114.53	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0659	1.0714	1.0758	1.0728	1.0753	
	High	1.0710	1.0770	1.0775	1.0770	1.0766	
	Low	1.0625	1.0695	1.0720	1.0711	1.0658	
	NY 17:00	1.0704	1.0765	1.0730	1.0750	1.0682	
ユーロ/円	東京9:00	122.54	121.95	121.35	122.17	121.81	
	High	122.94	122.46	122.21	122.27	122.66	
	Low	122.29	121.14	121.21	121.63	121.69	
	NY 17:00	122.45	121.32	122.15	121.74	122.30	
日経平均株価		19,137.91	18,891.03	18,787.99	19,057.50	19,402.39	
TOPIX		1,533.46	1,514.63	1,506.33	1,521.58	1,545.01	
NYダウ工業株30種平均		19,827.25	19,799.85	19,912.71	20,068.51	20,100.91	
NASDAQ		5,555.33	5,552.94	5,600.96	5,656.34	5,655.18	
日本10年債		0.07%	0.06%	0.05%	0.07%	0.09%	
米国10年債		2.47%	2.40%	2.47%	2.51%	2.50%	
原油価格(WTI)		53.22	52.75	53.18	52.75	53.78	
金(NY)		1,204.90	1,215.60	1,213.60	1,200.50	1,192.50	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・ 米国では、1月31日(火)～2月1日(水)にかけてFOMCが開催される。前回会合(12月13～14日)では、市場予想通りFF金利誘導目標が+25bp引き上げられた。また、FOMCメンバーの政策金利見通し(ドットチャート)は予想を上回り、2017年の利上げ見通しが2回から3回に上方修正されている。イエレンFRB議長は否定しているが、利上げの背景にはトランプ次期大統領による経済政策(トランプノミクス)への期待もあると考えられる。そうした中、今回会合にかけてはトランプ政権が発足した直後で、トランプノミクスの具体化も進んでいない。そのため、FRBはトランプ大統領の動向を見極めるためにも現状の金融政策を維持するだろう。なお、3日(金)には1月雇用統計が発表される。雇用統計の調査週にあたる1月第2週(12日を含む週)の新規失業者保険申請数は、趨勢を示す4週移動平均で24.7万人と12月(26.4万人)から減少した。そうした計数も踏まえ、市場では1月非農業部門雇用者数が前月比+16.8万人と12月(同+15.6万人)から僅かに拡大すると予想されている。このほか、2月1日(水)に1月ISM製造業景気指数、1月ADP雇用統計、3日(金)に1月ISM非製造業景気指数の発表が予定されている。
- ・ 本邦では、1月30日(月)～31日(火)にかけて日銀の金融政策決定会合が開催され、展望レポートが発表される。前回会合(12月19日～20日開催)の「主な意見」では、景気判断が「緩やかな回復基調が続いている」と1年7か月ぶりに上方修正された。また、物価については原油価格の上昇を受けてインフレ率が高まっていくと期待する意見も見られた。もっとも、既に日銀は厳格なインフレターゲットからは距離を置いた政策運営を行っており、政策変更にも最も影響を与えるのは為替水準だと考えられる。足許にかけてはドル/円相場は昨年末に比べて円安基調で推移しており、日銀が敢えて政策変更を行う必要性は乏しい。そのため、今回会合では現状の金融政策が維持されるだろう。なお、25日には実施が予想されていた国債買い入れオペが見送られるなど、日銀は引き締めの姿勢も見せている。声明文で「年間約80兆円」としている国債購入額の取り扱いにも注目だ。このほか、1月30日(月)に12月小売売上高、31日(火)に12月失業率・有効求人倍率、12月鉱工業生産指数(速報)、2月3日(金)に日銀金融政策決定会合(12月19～20日開催分)の議事要旨が発表される。
- ・ 欧州では、30日(月)に独1月消費者物価指数(CPI、速報)、31日(火)にユーロ圏10～12月期GDP(1次速報)、ユーロ圏1月消費者物価指数(HICP、速報)、2月2日(木)に英中銀(BOE)の金融政策委員会及び四半期インフレ報告、3日(金)にユーロ圏12月小売売上高が予定されている。

	本 邦	海 外
1月27日(金)	—————	・米10～12月期GDP(1次速報) ・米12月耐久財受注(速報) ・米1月ミシガン大学消費者マインド(確報) ・ユーロ圏EU経済・財務相理事会(ブリュッセル)
30日(月)	・日銀金融政策決定会合(～31日) ・12月商業販売統計	・米12月個人所得・消費 ・米12月PCEコアデフレーター
31日(火)	・金融政策決定会合・展望(基本的見解) ・12月労働力調査 ・12月家計調査 ・12月鉱工業生産(速報) ・12月新設住宅着工	・米FOMC(～2月1日) ・米11月S&P/コアロジックケース・シラー住宅価格 ・米1月シカゴ購買部協会景気指数 ・米10～12月期雇用コスト ・米1月消費者信頼感指数 ・ユーロ圏10～12月期GDP(速報) ・ユーロ圏1月消費者物価(速報)
2月1日(水)	—————	・米1月ADP雇用統計 ・米12月建設支出 ・米1月ISM製造業景気指数
2日(木)	・1月マネタリーベース	・米10～12月期労働生産性(速報)
3日(金)	・金融政策決定会合議事要旨(12月19～20日開催分)	・米1月雇用統計 ・米1月ISM非製造業景気指数 ・米12月製造業新規受注 ・米12月耐久財受注(確報)

【当面の主要行事日程(2017年1月～)】

ユーロ圏財務相会合・EU経済財務相理事会(2月20～21日、3月20～21日)
 ECB理事会(3月9日、4月27日、6月8日)
 米FOMC(3月14～15日、5月2～3日、6月13～14日)
 日銀金融政策決定会合(3月15～16日、4月26～27日、6月15～16日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2017年1月)

月	火	水	木	金	週末
2 日本 振替休日	3 米国 建設支出(11月) 米国 ISM製造業景気指数(12月)	4 米国 FOMC議事要旨(12月13～14日開催分) ユーロ圏 消費者物価(速報、12月)	5 日本 マネタリーベース(12月) 日本 自動車販売台数(12月) 米国 ADP雇用統計(12月) 米国 ISM非製造業景気指数(12月)	6 日本 毎月勤労統計(11月) 米国 雇用統計(12月) 米国 製造業新規受注(11月) 米国 耐久財受注(速報、11月) 米国 貿易収支(11月) ドイツ 製造業受注(11月)	
9 日本 成人の日 米国 消費者信用残高(11月) ユーロ圏 失業率(11月) ドイツ 鉱工業生産(11月) ドイツ 貿易収支(11月)	10 米国 卸売在庫(速報、11月) 米国 卸売売上高(11月)	11 日本 景気動向指数(速報、11月)	12 日本 貸出・預金動向(12月) 日本 景気ウォッチャー調査(12月) 日本 国際収支(11月) ユーロ圏 鉱工業生産(11月)	13 日本 マネーストック(12月) 日本 企業倒産件数(12月) 米国 生産者物価(12月) 米国 小売売上高(12月) 米国 企業在庫(11月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、1月) 米国 財政収支(12月)	
16 日本 機械受注(11月) 日本 国内企業物価(12月) 日本 第三次産業活動指数(11月) ユーロ圏 貿易収支(11月)	17 日本 鉱工業生産(速報、11月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(1月) ドイツ ZEW景況指数(1月) 世界経済フォーラム(～20日、ダボス)	18 米国 消費者物価(12月) 米国 鉱工業生産(12月) 米国 米TICレポート(対内対外証券投資、11月) ユーロ圏 消費者物価(速報、12月)	19 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(1月) 米国 住宅着工(12月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト) ユーロ圏 経常収支(11月)	20 米国 新大統領就任式	
23 日本 景気動向指数(速報、11月)	24 米国 中古住宅販売(12月) ユーロ圏 製造業PMI、サービス業PMI(速報、1月)	25 日本 貿易収支(12月) ドイツ IFO企業景況指数(1月)	26 日本 企業向けサービス価格(12月) 米国 新築住宅販売(12月) 米国 卸売在庫(速報、12月) 米国 景気先行指数(12月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル)	27 日本 全国消費者物価(12月) 日本 東京都都区消費者物価(1月) 米国 GDP(1次速報、10～12月期) 米国 耐久財受注(速報、12月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、1月) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ブリュッセル)	
30 日本 日銀金融政策決定会合(～31日) 日本 商業販売統計(12月) 米国 個人所得・消費(12月) 米国 PCEコアデフレーター(12月)	31 日本 金融政策決定会合・展望(基本的見解) 日本 労働力調査(12月) 日本 家計調査(12月) 日本 鉱工業生産(速報、12月) 日本 新設住宅着工(12月) 米国 FOMC(～2月1日) 米国 S&P/コアロジックケース・シラー住宅価格(11月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(1月) 米国 雇用コスト(10～12月期) 米国 消費者信頼感指数(1月) ユーロ圏 GDP(速報、10～12月期) ユーロ圏 消費者物価(速報、1月)				

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2017年2月)

月	火	水	木	金	週末
		1 日本 自動車販売台数(1月) 米国 FOMC(31～2月1日) 米国 ADP雇用統計(1月) 米国 ISM製造業景気指数(1月) 米国 建設支出(12月)	2 日本 マネタリーベース(1月) 米国 労働生産性(速報、10～12月期)	3 日本 金融政策決定会合議事要旨 (12月19～20日開催分) 雇用統計(1月) 米国 ISM非製造業景気指数(1月) 米国 製造業新規受注(12月) 米国 耐久財受注(確報、12月)	
6 日本 毎月勤労統計(12月) ドイツ 製造業受注(12月)	7 日本 景気動向指数(速報、12月) 米国 貿易収支(12月) 米国 消費者信用残高(12月) ドイツ 鉱工業生産(12月)	8 日本 金融政策決定会合による主な意見 (12月19～20日開催分) 国際収支(12月) 日本 貸出・預金動向(1月) 日本 景気ウォッチャー調査(1月) 日本 企業倒産件数(1月)	9 日本 マネースtock(1月) 日本 機械受注(12月) 米国 卸売在庫(確報、12月) 米国 卸売売上高(12月) ドイツ 貿易収支(12月)	10 日本 国内企業物価(1月) 日本 第三次産業活動指数(12月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、2月) 米国 財政収支(1月)	
13 日本 GDP(速報値、10～12月期)	14 日本 鉱工業生産(確報、12月) 米国 生産者物価(1月) ユーロ圏 鉱工業生産(12月) ユーロ圏 GDP(速報、10～12月期) ドイツ ZEW景況指数(12月) ドイツ GDP(速報、10～12月期)	15 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(2月) 米国 消費者物価(1月) 米国 小売売上高(1月) 米国 鉱工業生産(1月) 米国 企業在庫(12月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、12月) ユーロ圏 貿易収支(12月)	16 米国 住宅着工(1月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(2月)	17 米国 景気先行指数(1月) ユーロ圏 経常収支(12月)	
20 日本 貿易収支(1月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル)	21 ユーロ圏 製造業PMI、サービス業PMI(速報、2月) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ブリュッセル)	22 米国 中古住宅販売(1月) 米国 FOMC議事要旨(1月31日～2月1日開催分) ユーロ圏 消費者物価(確報、1月) ドイツ IFO企業景況指数(2月)	23 日本 企業向けサービス価格(1月) 日本 景気動向指数(確報、12月)	24 米国 新築住宅販売(1月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、2月)	
27 米国 耐久財受注(1月、速報)	28 日本 鉱工業生産(速報、1月) 日本 商業販売統計(1月) 日本 新設住宅着工(1月) 米国 卸売在庫(速報、1月) 米国 GDP(2次速報、10～12月期) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格 (12月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(2月) ユーロ圏 消費者物価(速報、2月)				

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2017年1月26日	日銀による国債買い入れオペ見送り～為替からの読み方～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年12月分)
2017年1月25日	貿易収支の調整経路～「理不尽な円高」は不可避か～
2017年1月23日	ECB理事会を終えて～窮屈になる緩和環境～
2017年1月20日	週末版
2017年1月19日	改善が顕著なユーロ圏の与信・物価状況～ECBは慢心せず～
2017年1月18日	メイ英首相演説を受けて～反EUの「悪い見本」になるのか？～
2017年1月17日	目の敵にされる4つの通貨～対米黒字を稼ぐ「悪」の枢軸？～
2017年1月16日	ECB理事会プレビュー～「可能な限り、現状維持」が本音～
2017年1月13日	週末版(円相場における実需と投機の現状について～対外証券投資にまつわる懸念事項も～)
2017年1月12日	トランプ次期大統領会見について～トランプはトランプのまま～
2017年1月11日	「国際金融のトリレンマ」を通じた日中比較
2017年1月6日	週末版(外貨準備構成通貨の現状(2016年9月末時点)～ユーロの独り負けだった過去3年～)
2017年1月5日	FOMC議事要旨(12月13～14日開催分)を受けて
2017年1月4日	2017年のドル相場について～空中戦はどこまで続くか～
2016年12月27日	2017年、為替相場の勘所～実効ベースで複眼的に～
2016年12月26日	2017年のブラックスワンはどこに現れるのか？
2016年12月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年11月分) 週末版
2016年12月19日	メインシナリオのリスク点検～「守りの姿勢」継続を～
2016年12月16日	週末版(メキシコペソはドル高相場を阻むか～避けて通れない政治的通貨～)
2016年12月15日	FOMC(12月13～14日開催分)を終えて
2016年12月13日	米金利高・ドル高の影響～「熱する前に冷やす」怖さ～
2016年12月12日	円相場における実需と投機の現状について
2016年12月9日	週末版(ECB理事会を終えて～2016年は「QEの終わり」を告げる年に～)
2016年12月7日	日米金利差から見たドル/円相場の水準感などについて
2016年12月6日	イタリア国民投票レビューとECB理事会プレビュー
2016年12月5日	トランプ/ミクスのリスクとなる米国の完全雇用状態
2016年12月2日	週末版(トランプ/ミクスを左右する米製造業マインド～通貨政策のバロメーターに～)
2016年12月1日	イタリア国民投票プレビュー
2016年11月28日	ユーロ相場の展望～来年底打ちも政治リスクは重荷～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年10月分)
2016年11月25日	週末版(メインシナリオに対するリスクの整理～円安リスク、「現実味」は帯びたが「現実化」はまだ先～)
2016年11月24日	日米金融政策比較と為替への含意～格差は拡大の一途だが～
2016年11月22日	真空地帯に入るドル/円相場～暫定見通し～
2016年11月21日	チキンレースと化すドル高相場～レーガ/ミクスとの比較～
2016年11月18日	週末版
2016年11月17日	イタリア国民投票に関するQ&A
2016年11月16日	円の基礎的需給環境の現状と展望
2016年11月15日	トランプ/ミクスを巡る2つのシナリオ
2016年11月14日	トランプ/ミクス相場に関するQ&A
2016年11月11日	週末版(トランプ次期大統領のポリシーミクス～随所に見られる矛盾をどう捉えるか～)
2016年11月10日	トランプ大統領誕生と為替相場見通しへの影響
2016年11月8日	実質ドル/円相場の現状～「超異常」から「異常」そして「正常」へ～
2016年11月7日	米10月雇用統計を受けて～「最後の灯火」の可能性も念頭に～
2016年11月4日	週末版(FOMCを終えて～焦点は3回目、4回目の利上げに～)
2016年11月2日	日銀金融政策決定会合を終えて～無味無臭の政策運営へ～
2016年10月28日	週末版
2016年10月27日	ドル高相場の調整が進まない背景～実効相場の観点から～
2016年10月26日	円高シナリオにまつわるリスクの整理 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年9月分)
2016年10月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー～もう表舞台に立ちたくない～
2016年10月24日	ECB理事会を終えて～ECB版総括的検証の行方～
2016年10月21日	週末版
2016年10月20日	最近の対内・対外証券投資動向と為替について
2016年10月19日	英ポンド急落の読み方～通貨安戦争の勝ち組～
2016年10月18日	英ポンド急落の読み方～通貨安戦争の勝ち組～
2016年10月17日	米為替政策報告書を受けて～ドル高忌避変わらず～
2016年10月14日	週末版
2016年10月7日	週末版
2016年10月5日	ECBのテーバリング観測～予想すべきは真逆の方向～
2016年10月4日	世界にとつてのテールリスクとなる「欧州の潔癖主義」
2016年10月3日	外貨準備構成通貨の現状(2016年6月末時点)
2016年9月30日	週末版
2016年9月27日	ユーロ圏の与信・物価、為替に関する状況整理 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年8月分)
2016年9月26日	ハードルが上がった日銀の追加緩和
2016年9月23日	週末版(日米金融政策決定会合を終えて～確度が強まる円高見通し～)
2016年9月20日	米大統領選挙と為替相場に対する考え方について
2016年9月16日	週末版(「日銀相場」の活かし方～断ち切られた株と為替のリンク～)
2016年9月15日	G4通貨の調整状況～懸念されるドル安不足～
2016年9月14日	日銀会合プレビュー～「量との決別、金利への転進」～
2016年9月13日	ブレイナード講演を終えて～ハト派の矜持～
2016年9月12日	米利上げに怯える株式市場～「ドル高の罠」再び～
2016年9月9日	週末版(ECB理事会を終えて～注目はバロメーター修正の「次の論点」へ～)
2016年9月8日	円相場の基礎的需給環境～2016年7月～
2016年9月6日	ECB理事会プレビュー～「お茶を濁す」方法～
2016年9月5日	足許の円安の本質～「4か月前の円安」と同質～
2016年9月2日	週末版
2016年8月30日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年7月分)
2016年8月29日	イエレン議長講演を受けて～「短期は強気、長期は弱気」～
2016年8月26日	週末版(ドル高相場の読み方、考え方～何を、どう見ておくべきか～)
2016年8月24日	最近のユーロ相場の状況について
2016年8月23日	黒田日銀総裁インタビューを受けて
2016年8月22日	ECB理事会議事要旨(7月20～21日開催分)
2016年8月19日	週末版(円安・円高の正しい評価とは～交易条件、実質所得、ISバランスなどの観点から～)
2016年8月18日	FOMC議事要旨(7月26～27日開催分)～自信喪失？～
2016年8月17日	「円買い」ではなく「ドル売り」に主導された円高
2016年8月16日	リスクシナリオとしての世界経済の底打ち機運
2016年8月15日	本邦4～6月期GDP～実質所得環境は改善中～
2016年8月12日	週末版(人民元ショックから1年～「国際金融のトリレンマ」に照らしたおさらい)